

鹿大ジャーナル

KADAI JOURNAL

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

入学特集企画

夢をかなえるために

～鹿児島大学の就職支援と教育～

- 特集 1 鹿児島大学の就職支援
- 特集 2 知りたい！ 学部教育
- 特集 3 海外で学ぶ「VBIシリコンバレーセミナー」

鹿大の新たな試み

離島へき地の医療教育を支援する大学病院

アラムナイ追跡隊

ミュージアムプロデューサー 砂田光紀さん

鹿大見ている紀

保健管理センター

なんでも情報版「みみずく」

産学官による超小型人工衛星の開発計画スタート

クローンミニプラタの作出に成功

ベンチャービジネスプランコンテストで優秀賞

院生が初の鹿児島大学工業倶楽部賞を受賞





入学特集企画

夢をかなえるために

～鹿児島大学の就職支援と教育～

鹿大生は、日々多くのことを学び、将来の夢に向かって努力を重ねている。そんな学生の自己実現を助けるために、鹿児島大学の充実した就職支援や教育は大きな役割を果たしている。今回は、鹿大の「就職支援」「学部教育」「海外教育企画」を切り口に、鹿大の学生支援を紹介する。

特集1	鹿児島大学の就職支援	4
特集2	知りたい！学部教育	8
特集3	海外で学ぶ～VBLシリコンバレーセミナー～	16

大学は、学生が勉強やさまざまな活動を通じて、これからの長い人生をどのように生きるか、模索する場である。夢を実現しようと努力する学生に対し、大学は多くの支援を行っている。

入学特集企画では、その中の「就職支援」と「教育」に絞り、特集3本立てで紹介する。

特集1は「鹿児島大学の就職支援」と題し、学生が自ら将来の展望を描けるようにするための就職支援の内容、内定者の声などを紹介する。特集2「知りたい！学部教育」は、各学部がどのような考えを持ってそれぞれの教育を行っているかを紹介する。さらに、各学部の先輩が学生生活を振り返った生の声を披露している。特集3「海外で学ぶ～VBLシリコンバレーセミナー～」では、米・シリコンバレーでの研修に参加した学生たちの声とともに、セミナーの内容を紹介する。

それでは、鹿児島大学が学生の夢をかなえるために行っているさまざまな取り組みを、具体的に見ていこう。



今日から皆さんが キャンパスの主役です

国立大学法人 鹿児島大学学長

永田 行博

学 長 あ い さ つ

新入生の皆さん、鹿児島大学への入学おめでとう。今日から皆さんがキャンパスの主役です。陽光の中に緑輝くキャンパスで未来を大いに語りましょう。

今日は鹿児島大学の素晴らしさを紹介したいと思います。

私たちは平成16年4月の国立大学法人鹿児島大学の新たな出発に当たって、大学の基本理念に基づいて三つの大きな目標を掲げました。すなわち、鹿児島大学は、①新しい豊かさを創造する日本の主要な「知の拠点」になる、②人類はすでにグローバル化の中にあるとの認識のもとに、地域の発展に貢献するとともに、広く世界の人々のために貢献する、③組織運営の不断の自律的改善に努め、21世紀にふさわしい鹿児島大学の創出をはかる、と高らかに宣言しました。その宣言を実現するために、教育研究分野でのさまざまな改革が実行されつつあります。また多くの特色ある試みが行われています。異種臓器移植を目指したクローンミニブタの作出や焼酎学講座の設置、ユニークな人材育成を推進する稲盛経営技術アカデミーや海外研修のための米国シリコンバレーオフィスの設置などです。

このような改革とともに、私たちがもつとも重要な課題に掲げているものに教育と完全就職を目指した就職支援の強化があります。今回は入学特集企画として「夢をかへるために」鹿児島大学の就職支援と教育を取り上げました。鹿児島、九州のみならず日本全体にその就職支援を強化しつつあり、就職・学生支援を専任とするスタッフの増強を図っています。東京リエゾンオフィスの設置もその機能を有し、さらに強化されつつあります。

最近の大学ブランド・ランキングでは鹿児島大学は高く評価されました。そのブランド力をさらに高めるために、私たちは教養教育と学部教育に最大限の努力を傾注します。そして学生の皆さんが勉学やさまざまな活動を通じて、「明るく、人間性豊かな鹿児島大学生」に成長することを楽しみにしています。

さあ、志を高く掲げて、「どのようなことで人々の役に立てるか、役に立つか」を熟考し、「大学で何を学ぶか」を明確にして、誰よりも人一倍努力しようではありませんか。

就職活動の拠点、就職支援室

就職はアルバイトと異なり、多くの学生にとっては初めての経験である。自分がどんな職種に向いているのか、将来何がしたいのか、就職活動はどのように進めるのかなど、不安を感じる人も多いだろう。

そんな鹿大生の不安を取り除き、就職活動をサポートしてくれるのが「就職支援室」である。「相談という受け身ではなく、支援という形で大学側から学生に積極的に働きかける」という意味を込め、従来の就職相談室が、2004(平成16)

特集 ①

鹿児島大学の就職支援

大学を卒業後、ニートやフリーターとなる学生が増加しているという。学生に働くことの意味や将来の展望を描くことの大切さを教え、学生のやる気を引き出す役割が、今まで以上に大学に求められている。鹿児島大学では、就職支援室を中心に、鹿大生の就職率アップを目指してさまざまな支援を打ち出している。

年4月に就職支援室として生まれ変わった。相談コーナーやパソコン11台を設置した検索コーナー、資料の閲覧コーナーなどを徐々に充実させながら、さまざまな就職支援企画を実施し、鹿大生の就職支援に取り組んでいる。首都圏で就職活動を行う学生に対しては、鹿児島大学東京リエゾンオフィス(東京都港区芝浦)が支援を行う。

特集1では、その支援内容とともに、それらを活用して見事内定を勝ち取った、先輩たちの声を紹介しよう。



鹿児島大学学生部学生生活課 就職支援室

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-30

TEL 099-285-7341

URL <http://c2010.cla.kagoshima-u.ac.jp/>

* 開室時間 8:30~12:15 13:00~17:15

- ・昼休みも、パソコンの使用、資料の閲覧ができます。
- ・来室の学生さんは、利用者名簿に氏名を記入するか、インテリジェントカードをカードリーダーに通してください。

* 就職相談員・米島律郎先生による面談日は、毎週月・水・金の午後1時から5時までです(但し、祝祭日はお休みです)。面談を希望する方は、就職支援室で予約票の記入を行ってください。

就職支援室
(共通教育棟
1号館1F)

郡元キャンパスマップ

KORIMOTO CAMPUS MAP



<表1> 就職支援年間スケジュール(平成18年度)

毎月	●「就職支援室から」の発行… 全学年
4月	●教養科目前期「キャリアデザイン」の開始… 2年 ~19年3月まで●学内における企業説明会(企業からの要望により随時開催)… 3年、4年、院2年 12日●公務員採用試験説明会(国、鹿児島県、鹿児島市等)… 4年、院2年
5月	~19年4月まで●公務員受験対策講座開設(法学会主催・大学生協と共催) ~19年4月まで●教員採用試験対策講座開設(大学生協と共催) 下旬●学生向け就職冊子「就職支援ガイドブック」発行… 3年、院1年 下旬●鹿児島県公立学校教員採用試験説明会… 4年、院2年 下旬●九州地区各県教員採用試験説明会… 4年、院2年
6月	21日●第1回就職ガイダンス… 3年、院1年
9月	20日●第2回就職ガイダンス… 3年、院1年
10月	●教養科目後期「キャリアデザイン」の開始… 1年 18日●第3回就職ガイダンス(パネルディスカッション)… 3年、院1年
12月	6日●第4回就職ガイダンス(公務員受験希望者)… 3年、院1年
2月	14日●第5回就職ガイダンス… 3年、院1年 上旬●企業向け就職関係冊子「求人のための大学紹介」発行 上旬●バスツアーによる企業合同セミナーへの参加(於福岡)… 3年、院1年 中旬●合同企業セミナー… 3年、院1年
3月	●模擬面接… 3年、院1年



「キャリアデザイン」講義風景
(講師・濹澤 洋日本政策投資銀行南九州支店長)

1年次から始まる就職活動

大学に入学してホッとするのも束の間。数年後には進路決定という大きな節目が待ちかまえている。早い時期から卒業後の自分の姿をイメージし、その実現に向けて大学生活を送ることが大切だ。それを手助けするために設けられたのが、「1・2年生対象の教養科目「キャリアデザイン」である。

この科目は、自らの人生を設計する訓練を積み、就職活動の基礎知識を学ぶ内容となっている。求人・リクルート、人事のプロをはじめ、専門学校長、就農家、教職員、公務員、福祉従事者など、多彩な職種の人々が講師を務める。講義だけでなく、講義後のレポート提出、エントリーシートや自己アピール文を書く演習もある。この講義をきっかけに、有意義な4年間を過ごそう。

入学式当日には新入生の保護者を対象とした「保護者のつどい」を実施している。保護者に、鹿大の就職支援について知っていただく絶好の機会となっている。

就職活動は1年生のときから始まっている。大学生活は就職活動の準備期間でもあるということを経験に銘じておこう。



就職支援ガイドブック
「JOB HUNTING GUIDE」

多彩な企画と
きめ細やかな指導

3年生になると、いよいよ就職活動が本格化する。それでも慌てることはない。まずは、就職支援室を訪



第5回就職ガイダンスで行われた模擬面接
(講師・黒坂和彦(株)ディスコ西部支社長)

ねて情報収集をしよう。また、「就職支援ガイドブック」を参考にしながら、準備を進めよう。就職活動の手順から身だしなみに至るまで、丁寧に説明されている。きつと役に立つはずだ。

企業説明会や就職ガイダンス、模擬面接など、さまざまな就職支援の企画も準備されている(表1)。積極的に参加し、企業研究や面接の練習などを積み重ねていこう。

就職活動中に、誰かに相談したくなることもあるかもしれない。そのときは就職支援室の担当職員にアドバイスをもらおう。また、民間企業人事部出身の就職相談員も待機している。マンツーマンによる履歴書・エントリーシートの書き方指導や添削など、きめ細やかな指導が好評だ。気軽に相談に行ってみよう。迷いや悩みがあっても就職のプロのアドバイスによって、きつと次のステップへ進むことができるだろう。

*1 エントリーシート

就職試験や面接の際、それぞれの企業が独自に用意する質問項目のこと。「志望動機」「自己PR」「入社後やりたいこと」「学生時代に力を入れたこと」などの項目がある。書類形式だけでなく、パソコンの画面上で情報を入力・送信させる企業が増えている。エントリーシートで一次選抜を行う会社もある。

学生の要望に応える 新たな支援

新たな就職支援企画もある。

その一つとして2006(平成18)年2月に、初の「鹿児島大学合同企業セミナー」を鹿大郡元キャンパスで実施した。県内外の約120社が参加し、1企業あたり90分の持ち時間で、企業が学生に会社説明や求人案内などを行った。

このような企業説明会は県外でも開かれるが、鹿児島県から参加



鹿児島大学合同企業セミナー(2006年2月14日)



すると、交通費や宿泊費がかかるため、学生の負担は大きい。就職支援室では、昨年2月に福岡市・ヤフードームで開催された就職イベントに参加した鹿大生が特に多かったことを考慮し、今年から学長裁量経費を利用したバスツアーも企画した。1500円(保険料込み)で福岡に行けるため、就職活動による経済的な負担を軽くすることができる。募集開始からわずか1日半で応募締切となる、人気の企画となっている。

このように企業説明会は県外でも開かれるが、鹿児島県から参加

学生が主催する 就職支援イベント

就職支援を行うのは、大学だけではない。鹿大生自らも「鹿児島



ヤフードームでの就職イベント(2006年2月7日)。このイベントに参加する鹿大生のためのバスツアーが企画された

各学部の主な就職先(平成17年度卒業生)

文学学部

健康家族、鹿児島医療生活協同組合、鹿児島銀行、鹿児島県警、鹿児島県庁、鹿児島信用金庫、損保ジャパン、大日本印刷、第一生命保険、東京海上日動火災保険、南国殖産、南日本銀行、日本ガス、明治安田生命保険

教育学部

鹿児島県公立学校教員、熊本県公立学校教員、福岡県公立学校教員、神奈川県公立学校教員、長崎県公立学校教員、鹿児島県警、福岡県警、加治木女子高等学校、リクルート、鹿児島銀行、ノエビア化粧品、損保ジャパン、熊本日日新聞、アドベンチャーインターナショナル

理学部

鹿児島県公立中学教員、鹿児島県庁、鹿児島市役所、九州地区大学事務職員、日南学園教員、九大進学ゼミ、昴、南日本銀行、富士ソフトABC、西日本システムズ、RKKコンピュータサービス、アクアマリンふくしま(財団法人ふくしま海洋科学館)、南日本情報処理センター、日立製作所、ファミリーマート、JALスカイ九州、迫田、財宝、新日本科学、化学及血清療法研究所、小正醸造、出光興産、リンガーハット

医学部(保健学科)

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院、熊本大学医学部附属病院、聖路加国際病院、大分大学医学部附属病院、福岡大学医学部附属病院、順天堂大学医学部附属病院、昭和大学医学部附属病院、北里大学医学部附属病院、虎の門病院、鹿児島県、鹿児島市立病院、鹿児島市医師会、独立行政法人国立病院機構、鹿児島医療生協病院、鹿児島赤十字病院、その他民間病院

工学部

南日本情報処理センター、三菱自動車工業、トヨタ車体研究所、スズキ、ソニーセミコンダクタ九州、鹿児島松下電子、中越パルプ工業、日本郵政公社、リコーソフトウェア、ソフト流通センター、セントラルソフト、大和ハウス工業、積水ハウス、VSN

農学部

化学及血清療法研究所、イセキ農機、グラクソスミスクライン、越井木材、JA鹿児島県経済連、マルイ農業協同組合、南日本酪農協同、北海道農業共済組合、農林水産省、熊本県庁

水産学部

山野井、南九州畜産興業、ニチロ、日東製鋼、中島水産、マルハ、日本食研、極洋、鹿児島海陸運送、岩崎産業、健康家族、再春館製菓所、セイカ食品、やまは食品、大阪府警察本部

就職率の向上を目指して

発キャリアデザインセミナー「就職道場II」という就職支援イベントに取り組んでいる。就職活動を始めた4年生と、これから活動を始める2・3年生が協力し合い、「就職への強い決意を持つきっかけになる」(2005年度パンフレットより)ことを目標に、企業プレゼンテーション、グループディスカッション、OB・OGや企業人事担当者との質問会などを実施している。同じ目標を持つ友人や先輩たちと考えや悩みを共有し、就職活動への不安を吹き飛ばそう。

鹿大生は地元志向が強く、卒業者の約半数が県内で就職する。そのため、景気の上昇と共に県外での求人は増えてつあるものの、鹿大生のニーズとかがみ合わず、就職率アップにつながらないという現状がある。今後は、県内・県外の就職企業の開拓をさらに進めて学生と企業とのマッチングを図り、就職率の向上を目指していく。

鹿大に入れば、就職活動は恐るに足らず。鹿大は学生の就職を全力で応援している。

*2 学長裁量経費

本学の優れた教育・研究活動を支援するため、学長の権限で特定の教育・研究に配分できる予算のこと。個々の教員の教育・研究活動だけでなく、学内の複数の学部の教員が共同で行うプロジェクトなども、その対象となっている。

内定者

Voice の声



就職活動は将来設計

法文学部経済情報学科4年

那須 麻衣子さん

就職内定先 NTT西日本



成功する鳥は群れをなして飛ぶ

教育学部教育学専修4年

永井 貴士さん

就職内定先 南日本新聞社

就職活動とは将来設計の一部だと思います。まず自分がどんな仕事をしたいか、どこでどんな生活をしたのかを考え、その中で自分に合う道を見つけるべきです。そうすれば、目の前にある企業のネームバリューなどに惑わされず真剣に自分の将来を考え、業界を絞るべきか、地域を絞るべきか、職種を考えるべきか、先が見えてきます。

実際の就職活動では、大学の就職支援室にあるパソコンや新聞や情報誌、そこに集まる友だちから情報を得たり、とにかく家にこもらないで外に出ました。初めて経験する手探りの就職活動なので、就職支援室など、同じ目的を持った人の集まるところに足を運び、多くの人の意見を聞くことは大事だったと感じています。

私自身、自分が思い描いた将来の夢に少しでも近づけるように頑張っていきたいです。

「成功する鳥は群れをなして飛ぶ」。自分より能力の高い集団に飛び込んでいくことで、環境が自然と自分を高めてくれるという意味です。自分にはできないことを当たり前のようにやっている人。「この人になりたい」と憧れる人。そのような人と会うには、恥じらいを持つことができる場や「今のままではいけない」と思える場、自分の可能性を伸ばすことができる場に積極的に足を運ぶことです。

就職支援室主催の企業セミナーは、私にとっては未知の世界でしたが、そこで意識の高い企業人や同級生と接することで、多くのことを得ることができました。そのような場に行くのは、確かに最初は恥ずかしいかもしれませんが、「成功」の反対は「失敗」ではなく、「何もしないこと」です。就職活動の成功のためには、就職支援室に足を運ぶことをお勧めします。

相 談 員

Voice より

あなたは自分の将来をどう考えますか？



就職相談員

米島 律郎先生

(元南日本銀行事務部長)

日本経済はようやく明るさが戻りつつあり、雇用環境も改善の兆しが見えてきました。学生の皆さんにとってはチャンス到来です。しかし、あなたは自分の将来について今どのように考えていますか？

最近の求人票を見ると、「学部・学科を問わない」とか「既卒者を含む」という企業も増えてきました。それだけ企業は広く多彩な人材を求めているのが最近の傾向です。採用人員を大幅に増やす企業も出てきました。公務員の採用は依然として厳しい環境にありますが、警察官など採用を増やす職種もあります。そうした最近の採用動向に目を向けて多くの情報を集めることが、就職戦線を突破する一つの手がかりになります。

一方、採用する側は学生の資質についても注目しています。「将来性やチャレンジ精神、誠実さ、協調性、コミュニケーション能力」など見極めながら、より優秀な人材を求めている

ことに変わりはありません。

そうした採用担当者が求める学生の資質は、一朝一夕に身につくものではありません。日頃の勉強や経験を通じて、どれだけ「自分づくり」を心掛けてきたか、その積み重ねによって磨かれるものです。エントリーシートや面接で、「学生時代にあなたが挑戦したこと」といった類の質問が多いのは、どれだけ充実した学生生活を送ってきたか、その人の考えや物事への取り組み姿勢を問うことによって、求める学生の資質を推し量っているとんでも過言ではありません。

鹿児島大学は平成15年度から「キャリアデザイン」講座を開設しました。自分の将来を考える絶好の講座です。就職試験の直前対策も必要ですが、できるだけ早い時点から自分の進むべき将来を考えましょう。大学の就職支援室は、いつでも自由に、気軽に利用できる情報収集の場です。ぜひお越しください。

知りたい! 学部教育

法文学部

FACULTY OF LAW, ECONOMICS AND HUMANITIES

教育の特色

現代の
諸課題に
対応できる
人材の養成



比較宗教学演習



情報処理教育の授業



先輩からの ...

人文学科4年
井上 アリサ

ひとこと

現代社会は、急速に国際化・情報化が進み、環境や人間関係をめぐる複雑な問題の対応に迫られています。また、地域でも少子高齢化の問題や地域活性化の問題など解決すべき課題は山積しています。法文学部では、このような現代の諸課題に適切かつ積極的に対応できる実践的な能力を持ち、人間に対する深い洞察力を備えた人材の育成を目指しています。

本学部は、法政策学科、経済情報学科、人文学科の3学科から構成されていますが、3学科に共通して言えることは、

私が所属する人文学科では、多様で幅広い13の専門分野の中から専攻を決定します。私は西洋史専攻ですが、興味に合わせて専攻以外の領域も自由に受講できるため、外国文学や考古学、心理関係の講義も受講し、文系における総合的で幅広い知識を修得することができました。また、教員免許や学芸員となる資格を取得できるため、そのために必要な講義も受講しました。実習や教育学部での講義などは大変ですが、学び知る喜びがあり、自分の頑張り次第で本当に多くを経験し、吸収することができます。

大学では高校までと違い、自分の関心のあることを学べる一方、明確な答えがないものも多く、多角的な視点を持ち、物事を意識的に積極的に取り組む必要があります。また勉強以外においても、目標を持ち、将来のことを考えて過ごすことが、学生生活を充実させるためには必要だと感じました。

私はこの学部で楽しく学ぶことができ、熱心に指導し、相談にも乗って頂いた先生方や勉強や将来のことで支え合えた友人と出会ったことを、嬉しく思っています。皆さんも満足できる学生生活を送ってください。

それぞれの専門知識の修得にとどまらず、より多面的な学識の涵養かんようによるバランスのとれた人間形成を目標として、カリキュラムの編成が行われていることです。ことに各学科の演習等は、教員と学生が一体となる教育の場として位置づけられ、より深い学識と人間的な形成とのつながりを目指しています。また、他学科の授業も受講でき、より広い知識も修得できます。

本学部の自由闊達くわんだつな学風と南国のおおらかな自然環境が学生諸君の入学を待っています。

教育の特色

教育学部は大きく三つの課程に分かれて教育を行っています。まず、幼稚園・小学校・中学校・高等学校および養護学校等の教員を養成する「学校教育教員養成課程」と「養護学校教員養成課程」があります。そして、学校における教育に限らず、幅広く「教育」に関わる人材を育成する「生涯教育総合課程」があります。

教育は「百年の計」と言われるように、長い時間をかけて継続的



離島実習で複式学級を見学



先輩からの ..

教育学研究科2年
玉ノ井 智則

ひとこと

教育学部は、少人数の専修に分かれ、講義だけでなく実習や学祭などにも参加するため、学生、教員関係なく非常に仲が良いことが自慢です。卒業生も盛んに訪れ、教育現場を身近に感じることができます。

教育学研究科は、専門の研究に専念できるほか、研究や講義を通じて学部内外の方と接する機会も多く、幅広い視野を持つことができるようになります。

そのような環境の中で、充実した学生生活を送り、研究においても新しい成果を上げることができ、今後の大きな自信になりました。大学生活は自由です。さまざまなことに積極的に参加し、多角的に物事を捉えることが教員としての資質を向上させることにつながると思います。

に行われていくものです。したがって、教育学部が育成を目指している人材は、次の4点に要約されるでしょう。

- ①「教育」に対して関心や意欲、そして情熱を強く持ち、自分の専門分野において正確で幅広い知識を持っている人。
- ②教育の場において、援助者として、また文化の確かな伝達者として子どもや学習者の可能性を高めることに力を発揮できる人。
- ③教員(指導者)として、実践的指

導力を伸ばしていける基礎学力を持ち、どのような場面にも応用できる力を持っている人。

- ④子どもや人と関わるのが大好きで、ほかの人に対する温かい理解がある人。

このように考えて教育学部では、「私たちは美しい未来を築くために教育を学び教育の向上に邁進する」ことをモットーとし、現在はもちろんのこと「未来の教育」にも貢献することのできる優れた人材の育成を目的としています。

現在・未来の
教育に
貢献できる
人材を養成

教育学部

FACULTY OF EDUCATION



離島実習の様子

理学部

FACULTY OF SCIENCE



理学部1号館屋上にある教育用口径75cm天体望遠鏡

教育の特色

理学部の4学科では、それぞれの分野の専門知識だけにとどまらず、広い科学的な知識を身につけ、高度化した現代社会の要求に柔軟に対応できる、創造力豊かな人材の育成を目標に掲げています。南九州の豊かな自然や果てなき宇宙をはじめとする多様な題材の教育プログラムは、創造力を覚醒させ、「考える力」と「課題探求能力」を育みます。国内・外の研究機関や民間企業との共同研究も、グローバルな視点を養う重要な活動です。ひとりひとりの知的好奇心こそが、理学部の一番大切なエネルギー源なのです。学生と教員が教育カリキュラムについて自由に意見交換し、好奇心が新たな好奇心を生み出すような、よりよい教育システム作りを展開し続けていることも、理学部の大きな特徴です。

南九州の
自然や
宇宙などを
題材とした
多彩な教育

先輩からの・・・

ひとこと



生命化学科4年
立川 恵美子

理学部の授業で強く印象に残っているのは与論島での実習です。南の島の野外実習で生物の生態に直接触れることができ、教科書だけではわからない様々なことを勉強しました。蝶を捕まえるのも珊瑚を見たのも初めてでした。また、レポートの自由テーマで、海草についた星砂をただひたすら数えたのも今ではいい思い出です。

生命化学科では生物、化学を幅広く学び、ひとつの物事を多面的に考えることの重要性を知りました。大学に入って一番良かったことは、それまで以上に価値観、考え方の違うたくさんの人に会えたことだと思います。これからも、人との出会いを大切にしていきたいです。



物理科学科4年
黒木 健太

「理論は常に現実の何ものかの表現であり、その内容を具体的に考えることにこそ意味がある」私が理学部で学んだ視点、ある種の思想のようなものです。学部で学んだ様々な理論がこの世界に確かに存在しているという実感を得ることは、その理論を理解するために非常に重要なプロセスです。実際の使い方が理解できるまで、理論は理論でしかありません。理論がどのように現実に適用され使われるのかを実際に実験を通して理解したときに初めてその理論の恩恵を受けることができます。私にとって学部の授業でたくさんの実験を経験できたことは実に有意義なことだったと思います。



国際研究のひとコマ。
インドネシアの熱帯雨林にて

教育の特色

医学部には医学科と保健学科があり、保健学科は看護学、理学療法学、作業療法学の3専攻からなります。医学科では6年間の課程で医師を目指し、保健学科では4年間で看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士を目指した教育が行われます。



助産学沐浴実習



先輩からの ..

医学科6年
内野 えりか

医学部は、周知の通り大学生活が6年と長い。一人前の医師となるまでにはさらに時間がかかる。千里の道も一歩から、と言うけれど、長い旅路に出る一歩と、近所のコンビニまでの一歩とでは、準備も心構えも異なるはずだ。休憩し、寄り道し、迷いながらも、私が今まで歩く努力を続けてこられたのは、温かく送り出してくれた両親や、先人の残した道しるべや、地図の読める友人や、その他、直接的・間接的に出会った人々のおかげだ。目指す所はまだ遠いが、歩いて歩いて、ふと顔を上げたら、意外と近づいているかもしれない。随分抽象的になってしまったが、大学生活は、この歩き方を身に付ける所だったのではないかな、と私は思っている。

ひとこと

医学部では人間性豊かな、地域に貢献する、研究心旺盛な、国際的視野に立つ人材の育成を理念としています。中でも重要なことのひとつが「地域に貢献する医療人の育成」で、カリキュラムに離島での実習が盛り込まれている点は大きな特徴といえます。
日進月歩の医学・医療の世界では生涯にわたる勉強が必要で、授

業では学生が「自ら学ぶ能力」を高めることに主眼をおき、知識の修得だけでなく、学び方を身につけることに力を注いでいます。医療人としての長い道のりの「歩き方」を学ぶことが大切だからです。
このように、医学部では明日を担う医療人を育てるために、知識・技能・態度のバランスのとれた教育を行っています。

知識・

技能・

態度の

バランスの

とれた教育



保健学科作業療法学専攻4年
國部 ひろみ

鹿児島大学の保健学科での4年間は大変充実したものでした。

勉強の他に病院や施設などでの臨床実習やサークル活動、大学祭、アルバイトなどたくさんの経験をする事ができました。臨床実習では多くの人々と出会い、多くの人々に支えられながら学ぶことができました。

4年間はあっという間でしたが、思い出のたくさんつまった4年間になりました。4年間で出会ったたくさんの方々へ感謝し、社会に出ても一生懸命頑張りたいと思います。



細菌学実習の風景

医学部

FACULTY OF MEDICINE

歯学部

DENTAL SCHOOL



歯学部の実習風景

歯科医師で
ある前に
良識豊かな
人間であれ

教育の特色

歯学部は、沖縄を含む南九州における歯科医学の教育、研究の拠点大学として昭和52年10月に開設されました。歯科医師である前に良識豊かな人間であれ、という理念のもとに、「全人的歯科医療の実践と歯学分野における幅広い知識と創造性に富む歯科医師・高度歯科専門医師および歯科医学教育者、研究者を育成すること」を目的としています。幅広い識見と論理のかつ柔軟な思考力を醸成するため、基礎医学はもちろん、内科、外科、神経科などの隣接臨床医学一般にも大いに力を入れています。

「奉仕精神に満ちた、人間性豊かな、社会貢献できる歯科医師および歯科教育者・研究者を養成することを目指しています。」



先輩からの

歯学科6年
日高朗

ひとこと

「こんにちは。お話をうかがいます日高朗と申します。今日はどうなことでいらっしゃいましたか？」

6年次の臨床実習。いつもどおりに挨拶して、患者さんの問診を採りました。「下顎の前歯あたりの骨が少し膨らんできました。」と患者さんが答えられました。口腔内から始めて、全身の状態や過去に大きな病気をしたことがあるか、現在、飲んでいる薬はあるかなどのお話をうかがっていきます。レントゲン写真を見ると下顎の骨に卵形に抜けた部分があります。診断名を3つ考えて指導医の先生に報告すると、先生は私にいくつか質問され、簡単なディスカッションの後「歯原性角化嚢胞」と診断名をくださいました。後日、このテーマについてのレポートを提出しました。ここに挙げたのは一つの例ですが、歯学部の教育は「全身の健康のために顎・顔面・口腔・歯を診る歯科医療」を目指しています。

従って、全身疾患を理解するために基礎医学と臨床医学を、カリキュラムに沿って学習しました。例えば、2年次の御遺体解剖実習では頭部から足先まで全身を解剖させていただきました。また、5年次までに内科・外科はもちろん産婦人科や精神科まで広く学びました。6年間、歯学部で学んで歯科医学は想像以上に、その対象や手法の幅が広いことに驚かされました。



教育の特色

工学部では、将来の日本の高度な技術力を担い、国際的にも活躍できる人材を育てる教育を行っています。そのため、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受ける取り組みを積極的にしています。

JABEE認定を受けると、国際的に通用する教育水準を満足していることが世界に公表され、その組織には絶えざる教育改革を行う制度が整っているこ



吹上浜での海岸測量実習



先輩からの ..

機械工学科4年
宮本 祐司

大学においては自分が主人公であり、自主的に行動しなければ何も残らない学生生活を送ってしまうということを実感しました。また、たくさんの先生や友人と出会い、個々の考え方の違う中で意見を交わすことで、物事に対する柔軟な思考や心の豊かさを得ることができました。

工学部では、JABEEに準じた技術者教育の充実が図られています。専門分野の知識や思考などを獲得し、大きく社会に貢献するための良い機会を与えてくれます。この工学部に入学して本当に良かったと思います。私は本年4月から鹿児島大学大学院に進学する予定ですが、さらに学業や研究に励みたいと思います。

後輩や本学を目指す受験生の皆さんに一言。「志なければ、その先に道は開かぬ。」自分の将来への志を持って、悔いのない充実した大学生活を送ってください。

ひとこと

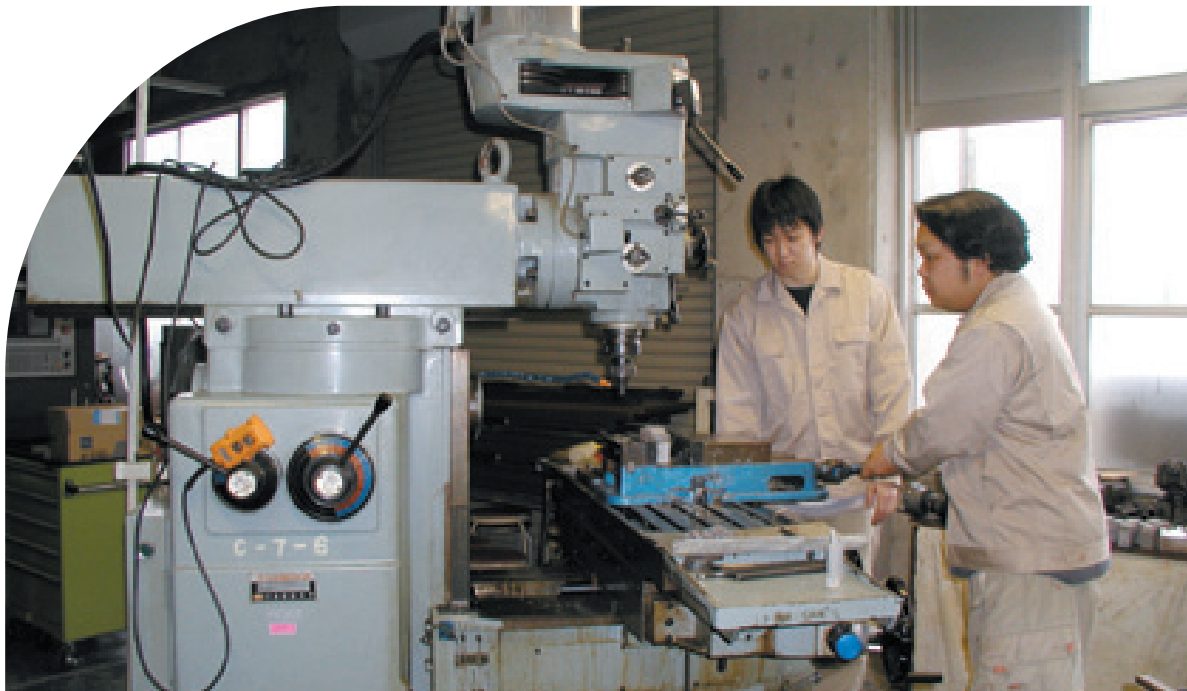
とが認められたこととなります。JABEE認定を受けた学科の卒業生は、国家資格である「技術士」の第一次試験が免除されるだけでなく、社会からも必要とされるため活躍の場が広がるのです。

平成16年度に機械工学科、応用化学工学科(化学工学コース)、海洋土木工学科がJABEE認定を受け、平成17年度には電気電子工学科がJABEE認定のため審査を受けました。平成21年度までには全学科がJABEE認

定の審査を受けることにしています。

工学部では、専門教育に関して高い水準を達成できるような教育を行うことはもちろんですが、デザイン能力と呼ばれる、知識や情報を統合化して技術目的を実現する構想力と実行力を身につけさせます。また、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力や、最近特に注目されている技術者倫理についてもしっかり教育しています。

国際的に
活躍できる
高度な
技術力の
修得



機械工作の実習(中央実験工場)

工学部

FACULTY OF ENGINEERING

農学部

FACULTY OF AGRICULTURE



コンバインを使った稲刈り実習



農学部附属動物病院での臨床実習
(獣医学科6年生による猫のレントゲン撮影)

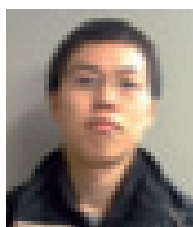
教育の特色

東京ドームが760個も入る大きさの演習林、牧場、農場で学ぶことができるのが農学部です。農学部は明治41年の創立以来、現場密着型の技術者教育に特色があり、そのために広大な高隈演習林その他の森林3,400ヘクタール、入来牧場、指宿植物試験場、唐湊果樹園、学内農場を併せた附属農場162ヘクタールが設けられ、実習、実験、研究に利用されています。広大な演習林と附属農場は生物生産学科、生物資源化学科、生物環境学科、獣医学科の4学科全てが利用し、活用されています。学生はこれらの演習林や附属農場で自然に接し、実物を知り、現場を体験することができます。現場密着型の技術者教育は学内にある附属動物病院でもなされています。年間5,500もの病気の動物が持ちこまれ、治療され、学生の臨床教育に役立っています。

現場
密着型の
技術者教育
が充実

ます。

講義でも、民間企業などの現場で働いている技術者、研究者、経営者が直接、学生にバイオサイエンス関連産業の現状や将来展望を語りかける、バイオ産業論があり、現場密着の教育がなされています。



先輩からの ……

生物環境学科農林工学コース4年
関屋 博之

ひとこと

私が4年間学んだ中で特に印象に残ったのは、食品の衛生ならびに品質管理システムであるHACCPというシステムに関する講義です。私は、今まで「食の安心・安全」の確保を、殺菌や貯蔵・異物混入防止などのデータを集めてその技術を発展させていくという視点だけで捉えていました。しかし、それらの技術は、原材料の生産から消費されるまでの各段階で実際に正常に機能して初めて意味を持つことを認識させられました。

また、食品が一体どの場所でどのくらい汚染される危険があるのか、汚染された場合にはどんな対策を取るのかを簡単な例を通して考え、その重要性を知ることができました。

私が感じたこのシステムの興味深いところは見た目のきれいさと安全性が一致しないところや、実現可能な問題にだけ取り組んでいくところです。科学的な指標とシステムの確実な機能によって「食の安心・安全」が確保されるのです。

この講義は、食の安全とは何かを考え直し、現在の研究を行うきっかけとなりました。



分子生物学の実験風景

教育の特色

本学部は、「海を怖れず、海を愛し、海を拓け」の建学の精神にのっとり、「水産資源の持続的生産と合理的利用」「水圏生態系を基礎とした水圏環境保全」「水産分野からの国際貢献と地域貢献」を教育の基本理念として、21世紀のフロンティア分野である明るい水産を拓く人材を育てています。

この人材育成目標を達成する



遠洋調査実習出港式にて

ために、本学部は独自の教育マネジメントシステムを構築し、学部教育部門では国内初のISO 9001認証を平成15年12月に取得しました。このシステムにより、学生も交えた教育内容や指導方法の双方向的点検改善など、教育サービスの質的向上を常に目指しています。

ひとこと

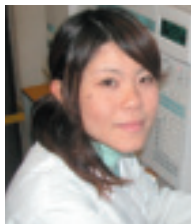
先輩からの ..



資源利用科学講座4年
松下 美貴子

全国でも数少ない学部なので、他の学部では得られない知識を身につけられることが一番の魅力です。水産分野を幅広く学んだうえで、自分を生かせるテーマについて深く研究することができます。新入生や受験生の皆さんにも、是非水産学部の広々としたキャンパスで、海の不思議を科学的に学び、追求しながら、伸びのびと実りある学生生活を送って欲しいと願っています。

さらにフィリピン大学との研究交流を始め、東・東南アジアを中心にさまざまな国際プロジェクトを展開するとともに、種子島や奄美大島の漁協との共同研究も実施し、これらを通し地域社会や国際社会に貢献できる水産技術者の養成も行っています。



海洋資源環境教育研究センター4年
國師 恵美子

水産学部は全国でも数少なく、日本各地から学生が集まります。この友人たちと共に学び、また時には羽目を外しました。また野外実習が多く、中でも一番楽しかったのが遠洋調査実習です。インド洋上で毎晩見た星空の美しさは忘れられません。漁業から環境まで海を舞台とした広い分野を扱う水産学部は魅力的だと思います。今後は大学院に進み、さらなる経験をつみたいと思います。

地域や

国際社会に

貢献する

水産技術者の

養成

水産学部

FACULTY OF FISHERIES



遠洋調査実習での漁業実習



大学院生対象の海外研修

シリコンバレーセミナーは、鹿児島大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（以下、VBL。施設長・隅田泰生教授）の教育プログラムの一環として実施されている、海外研修だ。

アメリカ合衆国カリフォルニア州シリコンバレーは、世界的コンピュータメーカーなどが軒を連ね、コンピュータやインターネットにおける技術革新を世界に発信し続けている地域である。セミナーでは、このシリコンバレーに設立された「鹿児島大学VBLシリコンバレーオフィス」を拠点に約1週間、ビジネスやハイテク産業、異文化について学び、帰国後の学生生活や研究活動に熱意を持って取り組める人材の養成を目指している。

参加資格は、研究科や専攻問わず、鹿大の大学院生であること。定員10名だが、小論文審査を経て選ばれた参加者には、全旅費の7割程度が大学から支給される。

シリコンバレーの英知を学ぶ

セミナーでは、シリコンバレー成立の歴史を語る上で外すことのできないスタンフォード大学の見学、同大学生との国際交流会、ヤフー、

特集 ③

海外で学ぶ

～VBLシリコンバレーセミナー～

鹿大生の学習の舞台は、鹿児島だけにとどまらない。鹿大のベンチャー・ビジネス・ラボラトリーが主催する「シリコンバレーセミナー」では、米カリフォルニア州シリコンバレーで研修を行っている。参加者からの評判も上々だ。

シリコンバレー
Silicon Valley



スタンフォード大学を望む

インテル、ヒューレット・パッカードといった世界的なIT企業の見学、米国の日本人会と連携して、現地で活躍する起業家や企業人を講師に迎えたセミナーなどが行われる。シリコンバレーオフィスの井手祐二オフィス長と四元輝博副オフィス長も、実はシリコンバレーで働く現役の起業家であり、鹿大工学部の出身者でもある。セミナー中は、この2人の大先輩からも多くを教わるができるだろう。

今後は、出発前の勉強会の内容を、質・量ともにさらに充実させる予定だ。「お膳立て」は整いつつある。あとは、参加者のやる気次第だ。「セミナーは自分への投資だが、研修後は自分だけでなく、その成果を周囲にも還元してほしい」と、石原田秀一VBL施設長補佐は言う。

*1 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL)
ベンチャービジネスに結びつく研究の推進と、高い専門性と創造性を持った大学院生を育成することを目的とした施設。

価値観が変わり、 生き方の原点を学んだ



理工学研究科生命化学専攻博士前期課程1年
谷川 由佳さん
Yuka Tanigawa

VBLの授業で大学院生を対象とした経営やベンチャー企業についての授業を受け、自分の研究だけでなく、ビジネスにも興味が出てきました。ベンチャー企業の本場であるシリコンバレーに行き、勉強できるといふことで、参加しました。

レクチャーは、講師の方と触れ合いながらいろいろ学ぶといった雰囲気、質問もしやすく、みんなどんどん質問をしていました。講師の方々は、自分の人生を楽しむためなら、困難もいとわずに挑戦していく方ばかりで、とても刺激を受けました。私は人とコミュニケーションを



取るのが苦手なんです。シリコンバレーでたくさんの人と知り合い、積極的に交流を広げることの楽しさを実感しました。

シリコンバレーには、世界的な企業の本社が集まっています。ヒューレット・パッドとヤフーでは、社内の見学をしました。案内してくださった方が日本人の女性で、女性も一人前に働けるんだ、と心強く思いました。

このセミナーは非常に内容が濃いので、絶対に行くべきです。私のように一度も海外に行ったことがない人もいると思いますが、一回行ってしまえば、それが短期間であっても自分の経験になります。次に海外へ行くとき、ハードルが低くなると思うんです。今までは考えたこともありませんでしたが、海外で仕事をするといい選択肢も自分の中に出てきました。価値観が変わり、生き方の原点を学べたと思っております。

直感を大切に 行動を起こしてみよう



理工学研究科物理科学専攻博士前期課程1年
長友 大典さん
Daisuke Nagatomo

去年、特許とベンチャービジネスの授業を取っていたときにシリコンバレーセミナーの開催を知りました。授業でシリコンバレーへの関心が高まっていたころだったので、すぐに参加を決めました。

セミナーでは、講師の方々がそれぞれの仕事を説明してくださる機会があったのですが、皆さん、自分のフィールドを持っていて、非常に努力をされています。そして、表現は違っていても、「面白いからこの仕事をしている」とおっしゃっていました。ただ、「安定はないよ」と付け加えていらしたことが印

象的です。今、就職活動中なのですが、自分の親くらいの年齢の人が「何か面白いことはないか」と目を光らせて、努力されているのを見て、行動する前から不安を抱くのではなく、直感を大切にするとにかく行動してみようと思えるようになりました。

期間中は、現地でコディネートしてくださった四元さん(鹿大VBLシリコンバレー副オフィス長)が、「君たちの好きなようにスケジュールをつくるからどんどん意見を言って」「会いたい人がいればアポイントを取るよ」と、とても柔



軟に対応してくださりました。もともと自分たちで事前の下調べを充分にやっておけば、いろいろなことを吸収できたのに、と少し後悔しています。

シリコンバレーで得たことを言葉で人に伝えるだけでなく、この素晴らしい体験を元に、具体的な行動を起こしていきたいと思っています。



喜界町国民健康保険診療所



屋久町栗生診療所の藤村先生と医学部学生および研修医



離島医療実習に参加した医学部学生

離島へき地の医療教育を支援する 大学病院

離島へき地医療を志す医師教育支援

双方向・多元的情報網を活用した

先進的医療人教育プログラム

鹿児島大学病院は、離島の医療機関で学ぶ研修医や医学部学生に対し、インターネットと最新の医療データ共有システムを駆使した教育支援を始める。鹿児島大学病院の専門家チームも手厚いサポートを行い、未来の離島へき地医療を担う医師を育てる。

医師不足に悩む鹿児島県の離島

離島医療を題材にして話題となった漫画「Dr・コトー診療所」の主人公が医師として働く島は、鹿児島県薩摩川内市の下甕島がモデルである。南北600kmにも及ぶ鹿児島県には、離島が多い。下甕島を含め、鹿児島県の有人離島数は27。離島人口数・離島総面積は全国第1位だ。不便な交通事情や地理的条件のため、離島の中には、医師不足に悩むところがある。

これまでも鹿児島大学病院は、離島へき地医療にさまざまな形で取り組んできた。医師派遣や巡回診療、国際協力機構(JICA)の「離島医療研修コース」受け入れなどである。

離島へき地医療に従事する医師の養成においても実績を積み重ねている。医学部を卒業して医師免許を取得した医師は、実際に患者さんの診断や治療にあたるために

必要な能力を身に付けるため、研修医として2年間の「卒後臨床研修」が義務づけられている。鹿児島大学病院の卒後臨床研修プログラムは、離島の医療機関で1カ月間の研修コースを設けている。医学部の学生も、3年生を対象とした「基礎医学特別コース」、「国際島嶼医療学講座」、6年生を対象とした選択実習「クリニカルクラクシップ」、学士入学学生を対象にした「人間学III」、希望学生を対象にした夏期休暇中の自主実習などで、「国際島嶼医療学講座」が担当もしくは調整する離島実習を受けている。

離島で学んだ研修医や学生は、さらに学習への意欲がわき、幅広い勉強の必要性を痛感して帰ってくるという。その後、実際に離島へき地に赴任して医師として働く人も出てくると期待される。

離島へき地で働く 研修医や学生を支援

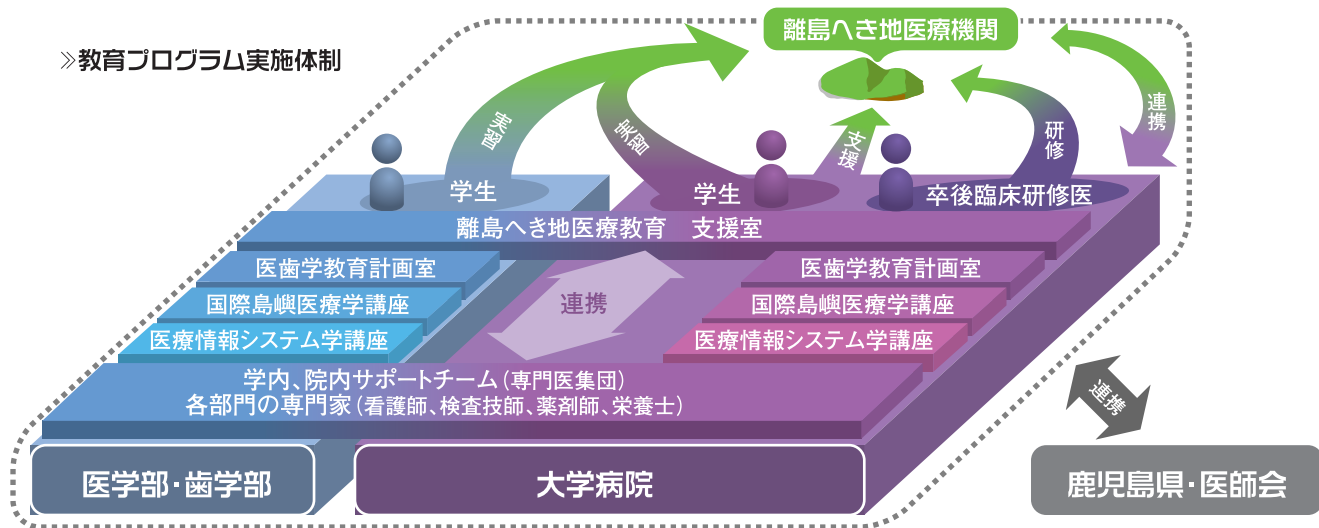
鹿児島大学病院では、こうした

離島へき地医療教育をより充実させた教育プログラムを開始する。「離島へき地医療を志す医師教育支援」双方向・多元的情報網を活用した先進的医療人教育プログラム」と名付けられたこのプログラムは、

昨年8月、文部科学省が募集した「医

*1 離島医療研修コース
離島を多く抱える開発途上国の医師に離島医療研修を行う、国際協力機構(JICA)の「地域提案型草の根技術協力事業」の一つ。「地域提案型」とは、地方自治体が主体となり、その地域社会が持つ知識や経験を生かした事業を実施し、開発途上国の経済や社会の発展に貢献することを目的としたものである。

教育プログラム実施体制



療人教育支援プログラム」に採択された。大学病院と連携した離島へき地の病院や診療所で研修医や学生を学ばせ、離島へき地で活躍できる幅広い能力を持った医師として育てるのが目的である。

離島へき地医療に従事する医師には、限られた設備や環境の中で適切な判断と対応できる、豊富な知識と経験に基づく適切な判断と対応が求められる。臨床経験が浅い研修医や学生には、自力での問題解決が難しい局面が出てくる。このため離島へき地で学びながらも、指導を受けられる教育体制が必要である。

時間と距離の壁を乗り越える支援体制

このプログラムでは、離島へき地医療教育の専門部署として、大学病院内に「離島へき地医療教育支援室」(室長・高松英夫鹿児島大学病院長)を立ち上げ、支援室を中心に離島へき地の医療機関をインターネットで結ぶネットワークをつくる。離島へき地から大学の講義を受講できる遠隔講義、講義の録画ビデオを見たいときに見られる「ビデオ・オン・デマンド」などを盛り込んだe-Learningシステムを導入し、離島へき地にいる研修医や学生が、

独力で学習できるようにする。研修医や学生が解決できない問題については、遠隔診断支援機能を有する「医用データ管理システム」を通して、ネットワーク内の医療機関同士が、患者の同意を得て、検査結果やレントゲン写真などを関係者間で安全に共有し、複数の医師が検討することで解決する。患者のデータはインターネットで瞬時に医師たちの元へ送られるため、迅速な対応が可能になる。

このシステムによる教育支援を実際に行うのが、大学病院内のサポートチームだ。鹿児島大学病院の専門医、看護師、検査技師、薬剤師、栄養士などで構成された専門家チームが責任を持って研修医や学生に指導を行う。インターネットと人的サポートを組み合わせた支援体制は、離島へき地での医療から、時間と距離の壁を取り除いてくれる。研修医や学生は安心して、研修や実習に取り組みるのである。

離島へき地医療のトレーニングセンター

今年3月には県内2カ所の離島診療所にパソコンやカメラなどの設備を提供し、順次設置拠点を増加する予定だ。また3月にはシン

ポジウムを開催して、地域の医療従事者からこの教育プログラムへの意見を聞いて問題点を洗い出し、新年度以降のプログラム改善に役立てる。鹿児島大学では、文部科学省からの資金援助がある3年間で支援体制を完成させ、2008(平成20)年度以降も県や県医師会などと連携し、離島へき地での医療教育支援を継続していきたいと考えている。

このように、離島の医療機関と大学病院がインターネットを介して連携し、離島へき地医療を志す医師を養成しようとする大規模な試みは、他大学にはまだない。鹿児島大学病院は、将来、離島へき地医療を担う人材のトレーニングセンターとしての役割を果たすことも視野に入れている。



この教育プログラムに関するお問い合わせ先
 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科先進治療科学専攻
 教授(腎臓・泌尿器センター長、卒業臨床研修部長) 中川 昌之
 TEL 099-275-5395 FAX 099-265-9727
 E-mail nakagawa@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

地元の素材と

地元の職人の技術。

これで、博物館に

魂が吹き込まれるんです。

『九州遺産』を出版した
ミュージアムプロデューサー
砂田 光紀さん

●砂田光紀さん2005年の仕事

2005年は、尚古集成館の「平成の展示大改修」に取り組んだ。「鹿児島に思い入れのある職人たちと組んだからこそできた幸せな体験でした」と砂田さん。写真中の薩摩切子のランプをつり下げた十二角形の木製サークルは、砂田さんが「学生時代からの知り合い」という笠沙の船大工、吉行昭(よけ あきら)氏の手仕事。砂田さんが腰掛けているフライホイール(鹿児島紡績所で使われていた蒸気機関用のはずみ車)を支えるのは、鹿児島市郡山で採掘される「郡山石」。島津斉彬の肖像写真を縁取る額には、川辺の仏壇職人が金箔を張った。砂田さんプロデュースの博物館は素材一つ、技術一つとっても、そこで使う必然性を感じさせるものばかりだ。

※「アラムナイ」とは英語で同窓生のこと。各界で活躍する鹿児島大学の卒業生や留学生などのユニークな活動を紹介します。

the Shuseikan

日本中を旅した大学時代

私、大学に入ってすぐに休学しました。地元の鹿大に合格はしたけど、何を専攻するか考えてなかったんです。「自分はこのままでいいのかな」と嫌になって、入学の翌月の5月5日には、自転車にまたがって西鹿児島駅(現在の鹿児島中央駅)にいました。そこから日本中を回る旅に出たんです。野宿をしながら北海道まで行って、夏場はそこで働き、また列島を南下しました。

自転車はスピードが遅いですが、通るところが全部目に焼き付きます。そこで暮らしている人々の生活や話している言葉、鹿児島とは異なる文化のすべてが新鮮でした。いろいろな世界があるんだということを初めて知り、故郷を客観的に見るができるようになりました。



屋久島でのフィールドワーク風景
原(はるお)集落公民館前で農業や山仕事に関する話を聞く学生時代の砂田さん

「旅をしなければならぬ」ゼミ

鹿児島に帰ってきて、専攻をいよいよ選ばなきゃいけないというとき、「考古・文化人類学」というのを見つけてました。ゼミの説明会へ参加したら、下野敏見先生(元鹿児島大学教授)が「うちのゼミに入ると旅をしなくてはいけません」とおっしゃったんですよ。それにピンときちゃった(笑)。「僕にぴったりだ」ということで、そのゼミに入りました。

そうしたら面白くて。すぐに離島に連れて行かれて「おじいさん、おばあさんの話を聞け」とか、「納屋に入って実測しろ」とか言われるんですよ。南西諸島、種子島、屋久島、薩摩半島、大隅半島、あらゆるところで教授とゼミの仲間と寝泊まりして調査しました。鹿児島にもさまざまな暮らしがあって、私たちが「お年寄りも古くさいことをやっているなあ」と思っていることには、実はこんなに素晴らしい効果や意味があったんだと肌で感じました。

フィールドワークは大きな礎

下野先生からはフィールドワークがいかに大事かということをしたき込まれた感があります。「学者の言うことを鵜呑みにしてはいけません。まず足で歩け」といつも先生

から言われました。自分も旅をして日本中を見てきた経験があるから、誰が何を言おうと実際はこうなんだ、という思いはありますね。

「フィールドノート」という社名は、自分で歩いて見てきたことをフィールドノートにいつでも何でもメモして、それを自分の引き出しにストックしておこうという意味で名付けました。民俗学に限らず、僕にとってはフィールドがすべての基本。大学で学んだフィールドワークは大きな礎です。

ミュージアムプロデューサーの仕事

ミュージアムプロデューサーは、博物館のイメージを描き、それに沿って素材や職人を選んで具体化していくのが仕事。

自分が手がけるからには、その土地でしかできないもの、そこを訪れる方が感動できるようなものをつくりたい。だから、地元の素材と地元の職人の技術を使っています。そうすると、非常にいいものができるだけでなく、博物館に魂が吹き込まれるんですね。それが職人の誇りになり、次世代にも受け継がれていく。「文化を担う」というと格好良すぎるかもしれないけど、それくらい考えていないと文

化は廃れてしまおう、といつも思っています。

後輩の方々に何か言葉を贈るとしたら「歩け」。放浪である必要はないけれど、日本を見よ、世界を見よ、外に出て歩け、と言いたい。人生は旅です。それも、素晴らしい旅にしてほしいですね。



『九州遺産』の出版

「掲載したのは101カ所ですが、実際には200数十カ所を取材し、車での走行距離は10万kmを超えました。大変な手間のかかった本ですが、ライフワークだと思ってやっています。もっと近・現代遺産の面白さを伝えたいですね(砂田さん)」。各遺産にはその見所が読者に伝わりやすいよう、「ポイント」が3つずつ提示されている。概略や詳細説明、砂田さん自ら撮影の写真と併せて、遺産の面白さを楽しんでみよう。

砂田 光紀 profile

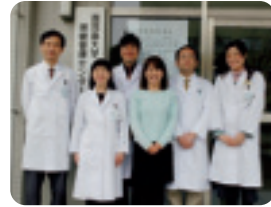
1963年鹿児島市生まれ。1988年鹿児島大学法文学部人文科学考古・文化人類学専攻を卒業後、調査員として同大理蔵文化財調査室に2年間勤務。知覧町の学芸員を経て、1993年博物館や美術館設計・運営のコンサルティング会社、(有)オフィスフィールドノートを福岡市に設立。全国各地の博物館・美術館建設に携わる。鹿児島県内の主な仕事は「たねがしま赤米館」「笠沙恵比寿」「笠沙美術館」「尚古集成館」など。2005年6月には初の著書『九州遺産～近現代遺産編101～』(弦書房)が刊行され、販売部数は1万部を超えた。

●有限会社オフィス フィールドノート(OFFICE FIELDNOTE)

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-1-25-403
TEL 092-477-1971 FAX 092-477-1972
URL <http://www.ofn-muse.jp/>

鹿大見て あゝ紀

「保健管理センター」
鹿児島大学キャンパスあんなに
Welcome to our Campus



スタッフの皆さん



リニューアルした休養室

学生と教職員の心身の健康を見守る

「保健管理センター」(所長：森岡洋史教授)は、学生の心身の健康を守るための施設として、1972(昭和47)年に設置されました。現在、専任スタッフ6名によって、学生と教職員の診療や健康・心理相談、定期健康診断などを行っています。

診療科目は内科、精神科、眼科、整形外科、耳鼻咽喉科、婦人科、歯科の7つです。来診者の心身の状態を見極め、それぞれの方に合った治療・処置、病院の紹介を行っています。基本的に診療・相談は無料です。そのほか、心理相談や特別・臨時健康診断などを行っています。

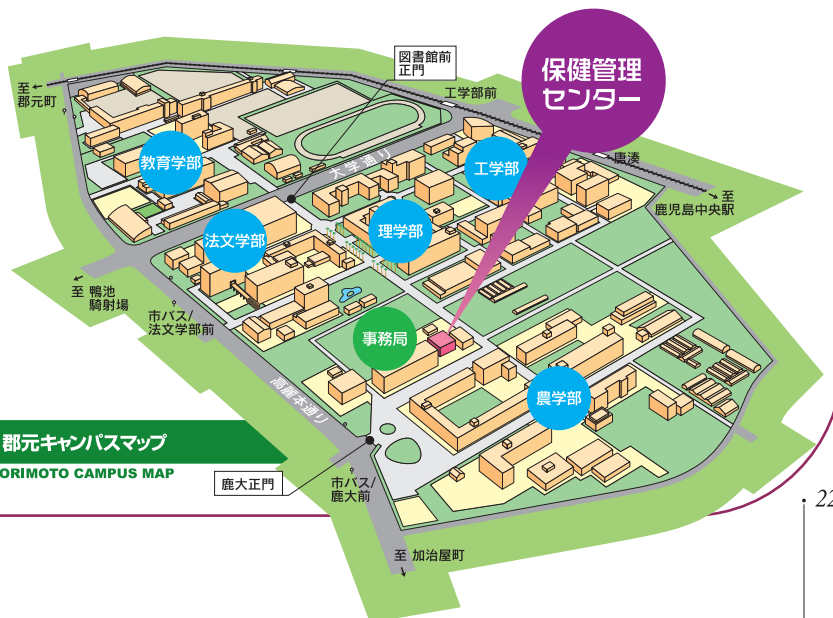
センターでは健康管理にとどまらず、積極的な健康増進のための取り組みも行っています。具体的には、お酒が飲める体質かどうかを判定するパッチテストや肥満改善サポート、不眠相談などがありますが、特にセンターを中心とした禁煙サポートは充実しています。2004(平成16)年6月から始まった大学建物内禁煙化に伴い、定期健康診断時の禁煙アンケートの実施や、ニコチンパッチとメールによる禁煙支援を進め、学生や教職員から多くの禁煙成功者を出しています。

今後は、各学部にはスタッフが出張して行っていた定期健康診断を、保健管理センター一カ所で行うことができるように計画を立てる予定です。また、不登校者・留年者・退学者の実態調査を進め、大学としての対策を立てることなども考えています。

センターの役割をもっと広く広報し、積極的に利用していただくことで、健康で充実した生活を送れるよう、今後も努めていきます。



● 鹿児島大学保健管理センター
〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24
TEL 099-285-7385 FAX 099-285-7384
E-mail hoken@kuas.kagoshima-u.ac.jp



郡元キャンパスマップ

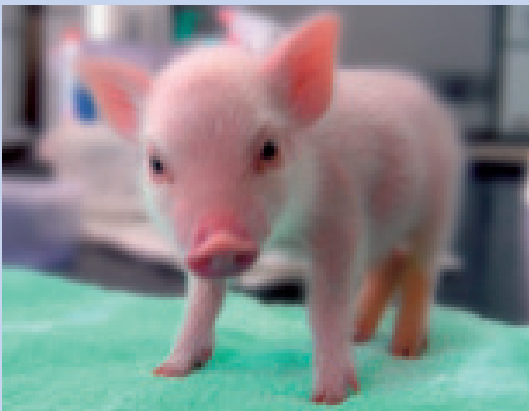
KORIMOTO CAMPUS MAP

▶ クローンミニブタの作出に成功

農学部吉田光敏教授らの研究グループは平成17年10月、クラウン系ミニブタの体細胞クローン産仔(体重540g)を入来牧場にて誕生させることに成功しました(写真)。作出の過程において、世界で初めて超音波処理(ソニケーション)が施されて誕生したことから「ソニン」と名付けられました。

今回誕生した体細胞クローンミニブタの系統は農学部が開発し、維持してきた国産唯一の純粋系統です。同系統は実験用動物としてばかりでなく、ヒトと類似した臓器・組織を持ち、比較的、日本人の体型に近いので移植医療素材を供給する重要な医用資源としても大変注目されています。しかし、ミニブタからヒトへの移植においては、拒絶反応やブタ由来の微生物が大きな障壁となります。

今後、ミニブタのクローン技術を基盤に拒絶反応や危険な微生物を抑えたミニブタを開発し、安全・安心な移植素材の安定供給を目指します。



クローンミニブタ「ソニン」



超小型人工衛星の完成イメージ

▶ 産学官による超小型人工衛星の開発計画スタート

産学官での情報と連携の交流を目的とするかごしま産学官交流研究会の1つとして、2005(平成17)年8月、新たに「鹿児島人工衛星開発部会」(部会長:西尾正則助教授)がスタートしました。

この部会は、鹿児島大学と県、地元の精密加工やソフトウェア関連の企業の研究者・技術者が手を組み、地元産の人工衛星を打ち上げようというものです。衛星は一辺10センチほどのサイコロ形で、この中に太陽電池や送受信機、コンピューターなどを組み込み、大学が独自に進めている大気中の水蒸気観測などに利用します。得られるデータを使い、地域に役立つ防災情報の提供を目指します。資金のめどが立てば1年半で完成させ、打ち上げに備えます。打ち上げは、大型衛星を打ち上げるときにロケット内のすき間に相乗りさせて打ち上げる「ピギーバック」と呼ばれる方法を予定しています。

■ 研究部会は、学生の参加も歓迎します。参加希望者は地域共同研究センター-099-285-8491、または理学部・西尾正則助教授099-285-6047までご連絡ください。

▶ 学生ベンチャービジネスプランコンテストで本学院生が優秀賞を受賞

新事業創出や起業を目指す人材の発掘と育成を目的とした、(財)かごしま産業支援センター(KISC)主催「学生ベンチャービジネスプランコンテスト」で、本学の3グループのプランが優秀賞を受賞しました。

受賞したのは、災害時に建築資材と水を同時供給できる「『バイオブリック』による仮設住宅の供給」、携帯電話のWeb機能を利用した「離島地区遠隔買い物支援システム」、有料閲覧サイトを利用しネットの社会復帰を促す「Webアニメーションの閲覧サイト: ネットおもしろ館」の3プラン(受賞者名は写真横)。

このうちの「『バイオブリック』による仮設住宅の

供給」は、開発メンバーに理工学研究科の齋藤浩文さんを加えて改良を重ね、福岡市で開催された「大学発ベンチャー・プランコンテスト」(九州経済産業局などの主催)においても、グランプリに輝きました。

「『バイオブリック』による仮設住宅の供給」
小田切知真・瀬戸口広樹
(2名とも理工学研究科)

「離島地区遠隔買い物支援システム」
南晃子・松田彩・西園玲奈・亀山恵・
今村美保・車如偉・上崎暁人・上城拓也
(8名とも法文学部)

「Webアニメーションの閲覧サイト:
ネットおもしろ館」
仲井俊裕・山浦真稔・前田孝志
(3名とも理工学研究科)



2005年11月9日
「学生ベンチャービジネスプランコンテスト」の表彰式にて



▶ 理工学研究科、農学研究科の院生が初の鹿児島大学工業倶楽部賞を受賞

「県産業の発展に貢献する優秀な研究」を行った大学院生として本学の理工学研究科博士課程3年の樋之口大作さんと農学研究科修士課程2年の峰 尚美さんが「鹿児島大学工業倶楽部賞」を受賞しました。

この賞は、去る平成17年10月、県内の製造業など異業種237社でつくる(社)鹿児島県工業倶楽部と、鹿児島大学が包括連携協定を締結したことを記念して創設され、受賞者には同倶楽部から記念品が贈呈されます。

本学は大学が持つ知的財産の地域への還元、地域を担う人材の積極的な育成など、「地域に密着し開かれた大学」を目指しており、この協定はお互いの資質向上と地域社会の発展に積極的に寄与していくことを目的として締結されました。このような国立大学と経済団体との連携は全国でも珍しい例です。

今後樋之口さんや峰さんたちのように、本学の教員と学生が、地域の特性や資源を生かした研究をさらに進め、地域産業の活性化に貢献できることを期待しています。



理工学研究科3年
樋之口 大作さん

受賞研究テーマ

「環境保全型マイクロカプセル化農薬製剤の開発と販売」



農学研究科2年
峰 尚美さん

受賞研究テーマ

「顕微授精技術による黒ブタ(パークシャー種)の生産」

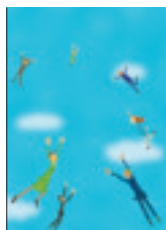


右から竹田副学長、永田学長、川崎工業倶楽部会長、本村同倶楽部産学官連携委員長

▶ 行事予定 (2006年4月～6月)

どなたでも参加できます。皆様方のご来場をお待ちしております。

行事名	日時・場所	問い合わせ先
生産物展示即売会	4月第1週の水・木曜日 9:00～16:00 郡元キャンパス農学部附属農場研究実習棟前	農学部附属農場業務係 ☎099-285-8770 (担当・東條、有働)
第6回自然体験ツアー 「鹿児島湾海藻ウォッチング —水の中のゆたかな森へ—」	5月13日(土) 13:00～15:00 桜島ビジターセンター前集合	鹿児島大学総合研究博物館 ☎099-285-8141 (担当・落合) ※参加には事前申込が必要
第11回研究交流会 「天然記念物という文化財」	6月3日(土) 13:30～15:30 郡元キャンパス総合教育研究棟201室	鹿児島大学総合研究博物館 ☎099-285-8141 (担当・大木)



(表紙写真)

●夢に向かって
自分は将来何をしたいんだろう、そのためにはどのような勉強をすればよいのだろうか…。学生の胸にはいつも、期待や不安、戸惑いが渦巻く。それでも、夢に向かって進んでいこうと、鹿大生は日々、一所懸命である。

広報誌編集専門部会部会長
菊川 浩行

今号では、みなさんの夢をかなえるための就職支援と教育を特集し、各学部のページでは、稲盛賞に推薦された先輩たちが、自分の送った学生生活をふり返っています。稲盛賞とは、しっかりと勉強したか、社会に役立つ活動をした学生に与えられる鹿児島大学独自の賞です。がんばってねらってみませんか。教職員はサービスマン、主役はあなたです。鹿児島が培ってきた自由な発想で、素敵な大学生活をプランしてください。

編集後記

新入生のみなさん、暖かくて自然がいっぱいの南国鹿児島へようこそ。海の好きな人は、指宿、坊津、吹上浜、足を伸ばして、佐多岬や離島へ、山の好きな人は霧島、開聞岳、高隈山、世界遺産の屋久島もすぐ近いです。晴れた日の大浪池は最高です。ぜひ一度ハイキングに行ってみてください。